

## 研究主題「他者を知り自身を見つめ、共に生きる」

～障害のある人と障害のない人が触れ合い共に学ぶ～

埼玉県立宮代高等学校

### 1 研究主題の設定理由

今年度春、本校に春日部特別支援学校宮代分校が開設したことに伴い、障害のある人と障害のない人が触れ合い、交流をする機会を増やしていくことを計画した。また、本校では分校開設準備の2年間、教職員、生徒、PTAと「インクルーシブ教育研修会」を数回にわたり実施し、障害者理解を深めてきた。交流教育を深め、同じ場で共に学ぶことを追求していくことで、思いやりや相互理解・寛容の精神、よりよく生きる喜びなどの道德性を育成する。

### 2 研究の仮説

宮代高校と分校との教科学習や行事でインクルーシブ教育を行い、体験により共によりよく生活できることを学ぶとともに、外部指導者による専門教育を実施し、講演により障害への知識と理解を深め、研修会でコミュニケーション能力を高めることで、思いやりや相互理解・寛容の精神を育成することができるのではないか。

### 3 研究の経過

- ・ 6月6日（月）第1回道徳教育講演会  
春日部特別支援学校宮代分校教頭 「障害とは」
- ・ 6月20日（月）在り方生き方教育①  
人権教育・道徳教育推進委員会 本校教諭 「18歳成人」
- ・ 7月21日（木）第2回道徳教育講演会  
ペップトーク普及協会 「コミュニケーション能力を高めよう」
- ・ 10月24日（月）第3回道徳教育講演会  
出前「起業家講座」
- ・ 11月21日（月）第4回道徳教育講演会  
夢と豊かな心をはぐくむ講演会事業 「アスリートによる講演会」
- ・ 12月1日（木）在り方生き方教育②  
人権教育・道徳教育推進委員会 本校教諭 「分校を知ろう」
- ・ 12月19日（月）第5回道徳教育講演会  
あすチャレ！ジュニアアカデミー事務局 「パラアスリートによる講演会」
- ・ 1月30日（月）第6回道徳教育講演会  
であい授業プロジェクト事務局 「であい授業」
- ・ 通年で実施 分校生徒、本校学校行事へ参加
- ・ 2学期より実施 分校生徒によるパン配布・販売
- ・ 月1回実施（計4回） 分校生徒・本校生徒会・地域とのゲートボール交流会



#### 4 研究の内容

(1) 6月6日(月) 第1回道徳教育講演会

春日部特別支援学校宮代分校教頭より

「障害を知り、共に生きる～まず、知ることから始めましょう～」

①宮代分校の概要、②障害について、③分校の生徒について、④まとめ、について説明があった。「分校を理解した上で、障害にかかわらず、分校一人一人の個性を見る。」「すぐにできないこともあるが、言葉をかけたり、待ったりしてあげる。」「お互いの個性を尊重する。」ことを学んだ。生徒からは、「分校生徒に校内でよく会うため、積極的に声をかけて交流してみたい。」「勉強会や趣味など話せる交流がしたい。」「『楽しい』『嬉しい』などの気持ちを共有したい。」と友好的な意見が多数あった。

(2) 6月20日(月) 在り方生き方教育①

人権教育・道徳教育推進委員会 本校教諭

「世界の18歳 ～18歳成人に求められること～」

世界と日本の「18歳」、日本で18歳が成人となる理由、変化すること・変化しないこと、責任について勉強した。日本の将来に関わる重大な立場となるので、共に助け合い、社会に参加し、社会に活力を与えられるよう成長してほしい、と期待を伝えた。

(3) 7月21日(木) 第2回道徳教育講演会

一般財団法人ペップトーク普及協会

皆の元気に「スイッチ・オン!」～コミュニケーション能力を高めよう～

相手の言葉に寄り添い、思いやりのある言葉がけができるようになるペップトークを学んだ。ポジティブ語で、相手の状況を受け止め、ゴールに向かって、短くて分かりやすく、人をその気にさせる言葉がけが、未来を作る。このことから、「ネガティブな状態よりポジティブな状態の方が、自分も相手も気持ちよく話せる。」「普段の会話から意識を変えていきたい。」「嫌な部分ではなく、良い部分を見て受け入れていきたい。」「まず自分自身を励まし、誰かを励ましたい。」と、周りの人のために優しい行動を起こそうと考える意見が多かった。

(4) 10月24日(月) 第3回道徳教育講演会

埼玉県産業労働部 産業支援課 Tres&Cy 合同会社 橘 友花 氏

出前「起業家講座」 新しいことにチャレンジし、未来を切り拓こう!

自分を大切に、そして周りも大切にして、みんなで素敵な日本を作っていこう。夢を持ち自分の可能性を見出し、誰かの役に立ち誰かのために行動を起こせるようになる。と講演をいただいた。「何かにチャレンジしてみたくなった。」「障害も個性、自分らしく、皆違ってみんな良い、と思えた。」「新しいことを創造したくなった。」と、やってみようと思う勇気が湧いてきた。

(5) 11月21日(月) 第4回道徳教育講演会

夢と豊かな心をはぐくむ講演会事業

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 青木 智美 氏 (水泳財・リビック出場)

「アスリートによる講演会」

①目標をしっかりと持つこと、②失敗から学ぶ、③最後まで諦めない、④好きを極める、が成功への秘訣である。夢に向かい希望と勇気を持ってやり遂げる姿勢を持つ、

## 埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

と声をかけていただき、生き方にふれ、「何回挫折してもめげずに目標を持って、頑張ろうと思った。」「夢を頑張って追いかけると手に届くのだと思った。」「自分に自信が持てた。」と、元気をもらえた。

### (6) 12月1日(木) 在り方生き方教育②

人権教育・道徳教育推進委員会 本校教諭

「宮代高校と分校 ～同じ学び舎の生徒を知ろう～」

①分校の授業とは、②部活動、③分校生徒の学校生活、④校内・進路活動、についてインタビュー形式で取材してきた動画と共に紹介を聞いた。「同じ人間として楽しく生活できれば、と思った。」「自分たちの高校に新しく、特別支援の方が来てくれて、一緒に過ごしていくのが嬉しい。」「私たちがしていない面白そうな授業がたくさんあって、一度見たり体験したりしてみたい。」「分校生との心の距離を縮めていきたい。」と交流を望む声が多かった。

### (7) 12月19日(月) 第5回道徳教育講演会

日本財団パラスポーツサポートセンター あすチャレ!ジュニアアカデミー事務局  
「パラアスリートによる講演会」

1年 官野 一彦 氏(車いすラグビー)

2年 伊吹 祐輔 氏(車いすバスケット)

3年 馬島 誠 氏(車いすパワーリフティング、アイスホッケー)

他者を受け入れることを学び、障害のある人もない人も、思いやり、支え合い、違いを受け入れて、よりよい社会を作るための第一歩となる講演会だった。「障害はみんなの工夫でなくすことができる、という言葉が心に残った。」「人と比較して自分の短所に目が向いてしまうので、長所を見つけるようにしたい。」「一日一日を大切にし、将来の自分に今回の話を活かしたい。」「障害の方だから、ではない環境をつくるべき。」と、一人ひとりが気づき、考え、行動するきっかけをもらえた。

### (8) 1月30日(月) 第6回道徳教育講演会

であい授業プロジェクト事務局

小林 覚 氏(るんびにい美術館アーティスト)

板垣 崇志 氏(るんびにい美術館アートディレクター)

山本 ゆかり 氏(ワークショップデザイン ファシリテーター)

岩手県花巻市から広げる「であい授業」

～「障害」を知るんじゃない。「人」を知るんだ。～

知的障害のアーティストの活躍する姿、文字を独特の形にアレンジしていく絵を見て、「障害を持った人であっても、個性を尊重できる多様性にあふれた環境を作りたい。」「言葉や気持ちが思うように伝えられなくても、周りに理解してくれる友達や仲間がいてくれることが大切。」「障害を持っていても、夢中になれることがあったり、想像もつかないような才能が有って、素晴らしい。」と、尊敬の念を抱いた。

### (9) 通年で実施 分校生徒、本校学校行事へ参加

対面式、体育祭、光輝祭(文化祭)、避難訓練、持久走大会、体力テスト(体育の授業)等、合同で実施した。今年開校した分校は1年生のみだが、本校生徒と同じ行事に参加し交流することで、お互いを知り、声をかけ励まし合い、協力する姿が見られた。



## 埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

### (10) 2学期より実施 分校生徒によるパン配布・販売

分校生徒が「職業」の授業でパンを製造し、2学期は練習で焼いたパンを本校生へ試食として配布していただいた。3学期より本格的にパンの販売が始まり、水曜日、木曜日の昼休みに1個100円で販売して、生徒は並んで買っている。「おいしい。」「見栄えもプロだね。」「次は〇〇パンを作って。」とリクエストもあり、食を介してもっと近い存在になってきている。

### (11) 月1回実施(計4回) 分校生徒・本校生徒会・地域住民であるゲートボール普及協会の方々とのゲートボール交流会

地域の方を指導者に約10名お招きして、ゲートボールを体験している。初めてゲームするスポーツに戸惑いながらも一から一緒に学び、チーム分け隔てなく競争し応援し合い、一つになれるひと時だった。テレビ取材も入り、異校種間・地域交流として取り上げていただいた。

## 5 研究の成果と課題

### (1) 成果

今年度は講演会を多く計画し、多様な講演者の方々から、生き様を見せていただいた。一人一人の考え方、価値観やものの見え方が、自分と同じではないことを自覚し、他者を尊重する態度を身に付けさせた。また、発想の転換を意識し、自分を肯定的に考え、前向きに生活するよう心がけて、相手を傷つけない言葉の言い換えや思いやりのある言葉を使い、よりよい人間関係を築いて生きていけるよう行動できる態度を養うことができた。

また、障害者理解を深めた上で、交流教育を行い、体験により同じ場で共に学ぶことを追求できた。生徒は「交流することで、お互い学べることがあるのだ、と知った。」「当たり前、はないし、感謝して生きていかないといけない、と改めて思った。」と、お互い築き始めた関係を大切に、深く相互に理解し合い、共存が日常と受け入れる寛容の精神が育まれた。

### (2) 課題

今年1年間、コロナの影響で、全校集会は行えなかった。講師の方には本校に御来校いただき、コンピュータ室からオンライン配信により、各クラスで視聴となった。動画はClassroom、Zoom、どちらの形態をとってもスムーズに流れない時があり、講演に支障をきたした。通信性能の不安定さは歯がゆいものがあり、「内容もとぎれとぎれで、何を伝えたいのかわからなくなった。」「いい講演が、残念だ。」と、感想や不満も出た。講師の方が手をかけてくださった動画や資料が提示できない申し訳なさを感じ、今後、配信方法や環境は検討が必要である。また、次年度は、生徒が参加型の学習形式を増やし、意見交換や発表を入れる。それにより、何を考えどうしていきたいか、互いに研究しコミュニケーション能力をつけさせ、行動を起こすことを実践させていく。